

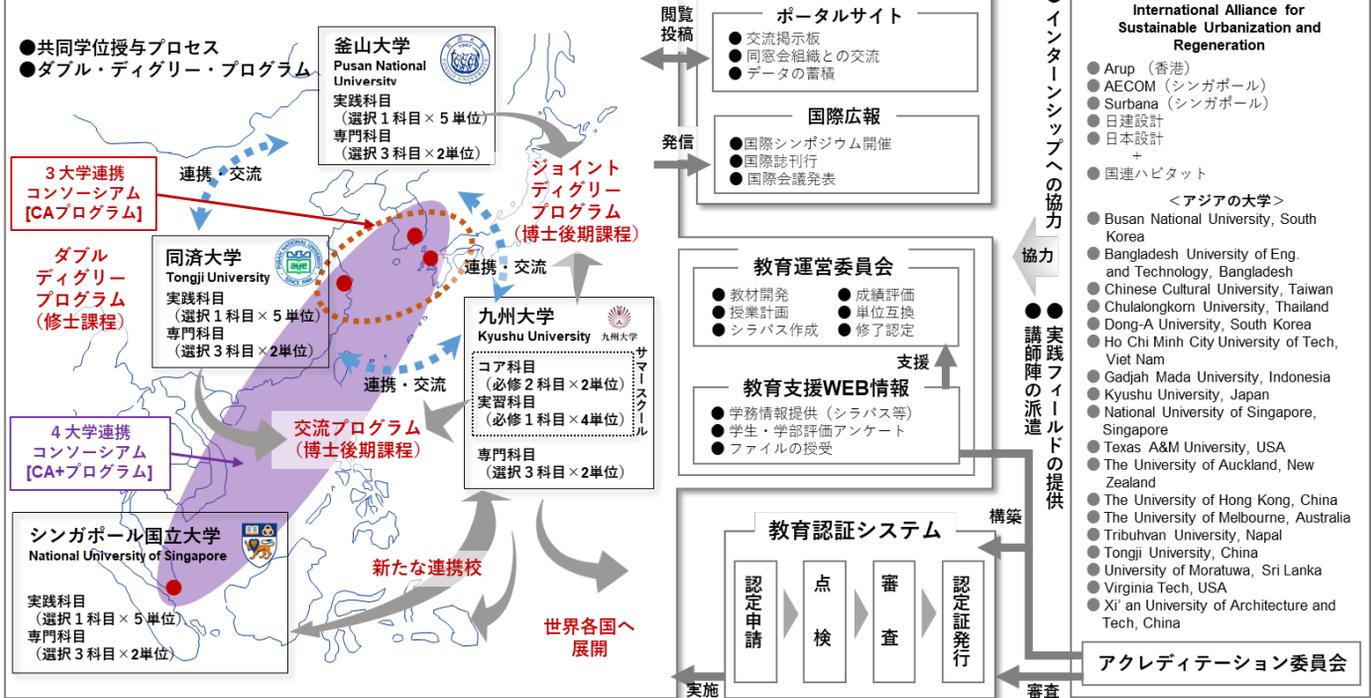
大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 九州大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム

【交流推進事業の概要】

アジアの大学に普及する国際標準モデル



【交流プログラムの概要】

急激な成長都市を抱えるアジア諸国では、都市・建築環境の悪化が国境を跨ぐ国際的な問題となっているため、脱炭素などの持続循環型社会に向けて、省エネルギー・省資源等の大きな構造改革が求められている。本事業では、九州大学が拠点となり、同濟大学・釜山大学・シンガポール国立大学と4大学コンソーシアムを形成して国際協働教育を推進し、都市・建築の環境保全に関する広範な技術や方策を理解して、それらを適切に実践できる高度専門人材(研究者および技術者)の育成に取り組んでいる。

【本事業で養成する人材像】

本事業は、「①建築が環境に与える影響を包括的に評価し、管理するための知識と技術」、「②都市を建築やインフラを包含する循環システムとして捉え、その総合的な環境負荷を評価し、管理するための知識と技術」、「③将来のあるべき都市・建築像を想定して、それに向けた新しい研究分野を開拓し、その実現に必要な都市建築政策への提言を行うための知識と技術」を教育目標として掲げ、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない脱炭素社会の構築など、国際的な環境問題を解決するために、俯瞰力・実践力・国際力を備えた都市・建築分野の高度専門家の養成を目指している。

【本事業の特徴】

都市・建築の全体を周辺領域まで俯瞰して、生活環境の実態や社会的・文化的背景の理解に基づいて個々の技術や政策を総合化し、環境施策を実践できる人材を養成するため、原理原則に基づく「基礎学知の修得」、および現地において固有の課題を把握・考察して解決策を導出し、応用・実践して学ぶ「実践学知の経験」を実施している。

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	22	22	29	29
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	0	0	0	0
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	5	5	5	5
受入	実際に渡航する学生	0	18	18	18	18
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	7	0	0	0	0
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	10	12	12

1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム】

(採択年度 令和3年度)

■ 交流プログラムの実施状況



〈 オンラインによるSDCの開講状況 〉

前年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大により、ダブルディグリープログラムを含む全てのプログラムがオンラインやハイブリッドでの実施となった。2021年8月に本学で実施したサマースクール“Sustainable Design Camp”にはコンソーシアム以外の大学(中国文化大学(台湾)、テキサスA&M(US))からも参加があり、海外と本学の教員・学生がオンラインで繋がり、共同してワークショップ形式の実践授業に取り組んだ。2022年3月にはスプリングスクールを開催し、国内外の第一線で活躍する建築家を講師として招聘し、国際化教育の一環としてキャリアパスフォーラムを開催した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

毎年5月に開催される“Construction Festival”(同済大学主催)など、多くのワークショップ形式の実践科目が中止となった。2月に開催された釜山ウインターワークショップは、本学の定期考査の時期と重なったため学生を派遣することはできなかったが、本学を含む各大学の教員が参加協力して国際協働教育を実施した。

○ 外国人留学生の受入

本学にて開催された“Sustainable Design Camp”では、釜山大学校より2名、中国文化大学(台湾)より10名、合計12名を短期留学生として受け入れた。ダブルディグリープログラムでは、釜山大学校2名、同済大学4名の学生を長期留学生として受け入れた。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

都市・建築に関する地域社会固有の問題に対処できる高度専門家の育成を目的として、九州大学を拠点に同済大学、釜山大学校、シンガポール国立大学と4大学コンソーシアムを形成している。国際協働教育による国際基準に準拠したローカルな実践的教育を目指して、原理原則に基づく「基礎学知の修得」、および現地で課題を把握・考察して解決策を導出し、応用・実践して学ばせる「実践学知の経験」を実施している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対しては、国際交流推進機構留学生センターが在籍管理と教育および修学・生活上の指導・助言・サポートを実施している。日本人学生に対しては、国際部留学課および各部局の学生担当部署が留学前の相談に対応するとともに、海外留学に関するホームページ「九州大学留学ガイド」および「Global Gateways Kyushu University」を開設して留学制度や留学先大学に関する情報を発信している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

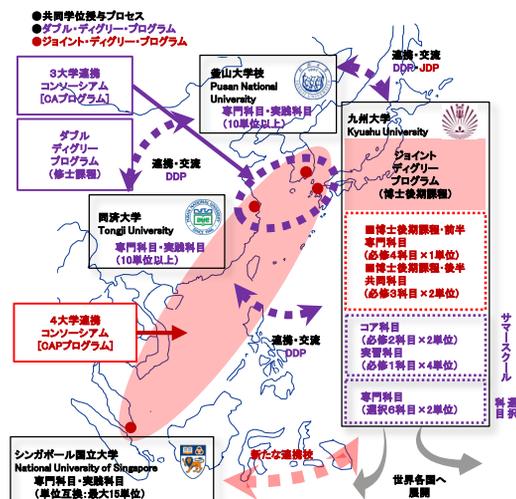
情報の公開、成果の普及

本プログラムの発展と普及を目的として、国際協働教育の内容や事業成果を広く国内外に広報する日英併記のホームページを開設している。各大学の紹介、教員情報、受講可能な科目・シラバス、短期・長期の留学プログラム等の様々な情報を掲載するとともに、国際ワークショップやセミナー、同窓会活動などの新着情報を随時発信している。中国、台湾、アメリカなど、コンソーシアム以外の大学からも本プログラムへの関心が寄せられ、国際協働教育の先導モデルとして成果を上げている。

■ グッドプラクティス等

本プログラムは都市・建築設計に関わる演習科目を含むため、海外現地での「実践学知の経験」が重要であるが、コロナ禍では課題対象地を実際に訪れることができないため、360°カメラや3Dスキャナ等を用いて、予め対象地の三次元情報や動画情報などのデジタルデータをサイバースペース(仮想空間)に準備し、XR技術(Extended Reality)を活用して遠隔地からもオンラインで設計演習に参加できるように工夫している。また、双方向通信技術を活用し、デジタルホワイトボードに設計課題を掲出し、オンライン上でリアルタイムに修正点やコメントを直接図示することにより、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育を実施している。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	10	0
学生の受入	7	8



〈 大学間交流の枠組み 〉